

御殿場

十字の園

(題字 鈴木生三)

2012
No.198号

夏

発行／総合福祉施設
御殿場十字の園
施設長 宮島克利
〒412-0023 御殿場市深沢1465の1
TEL 0550-83-1999
FAX 0550-82-5189
<http://www.jyuji.ne.jp>
e-mail: info@g.jyuji.or.jp

印刷／岳麓印刷株式会社

〔聖句〕喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマ12:15)



2012年7月7日 『たなばた』

イルド

理事長 平井 章

毎月第三日曜日は「食卓の日」を提唱したのは小室直義氏（前富士宮市長）です。

サザエさん一家もまる子ちゃん一家も食卓を囲んでの団らん場面がよく出ます。どちらも三世代同居の家族です。団塊の世代には懐かしくもあり羨ましくも感じます。日曜日の六時から二つのアニメを見ながら食卓を囲んでいます。何となく癒される時間です。

私は給食協会浜松市支部長をしています。静岡新聞「窓辺」に食育学会理事としての小室氏が連載されていたことから、総会講演会の講師にお招きしました。「食で地方を元気に、人を幸せに」をモットーに市長時代から精力的に活動されました。魅力ある方です。

講演を聞き「食」から世直しが出来るような気にさせられました。食の循環は「食↓農業↓環境↓健康↓食」と、忘れかけている食の伝承、おふくろの味、地産地消、スローフードから、健康で元気になりたいものです。

「自立支援介護」への取り組み

御殿場十字の園 施設長 宮島 克利

今年度から当施設では、全国老人福祉施設協議会による介護力向上講習会への参加を通じながら、「自立支援介護」に取り組んでおります。

講習会は、国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授を講師とされ、「自立支援介護」をテーマに二回二日間の研修が年間6回、継続的に行われます。既に、第一回目として五月十七日、八日に開催されました。

一回目と六回目は施設長も参加することとなっていることから、私も受講させていただきました。

「自立支援介護」の取り組みの一つは、トイレ等での排泄を目指した排泄ケアであります。この講習会に参加し、取り組んでいきたいと思ったのも、第一には、このトイレでの排泄をできるだけ支援したいからであります。

二〇二二年四月一日現在で、当施設ではベッド上で排泄介助を受けている方が、三九名

(三二・六%)いらっしゃいます。それを一人でも、トイレで排泄できるように支援したい。可能ならば全員をと思うのです。そう思えるのも、既にいくつかの施設では、ほぼ全員がトイレ等で排泄できるようになったという実績があるからでもあります。それも平均要介護度が当施設と同じ程度か若しくはそれ以上に高い施設であります。

私も就職当初にオムツ体験として、実際に自宅でオムツをしたまま排泄を試みたことがあります。しかし、なかなかできず、やっとの思いで少しずつ排泄だけででき、それですつきり感はずっとなくなかった思いがあります。

言うまでもなく、排泄は生きていく上で不可欠なことであるとともに、非常にプライバシー的な行為でもあります。だからこそ、プライバシーや自尊心への十分な配慮はもちろ



高谷 繁さん

裾野市から来ています。一男一女の父親です。利用者さんの笑顔にとてもやりがいを感じます。「笑顔を頑張ってください」のよう



武山幸浩さん

今年四月にちどりに配属になりました竹山幸浩と申します。これまで現場経験は無く皆さんに指導していただきながら毎日を楽しんで過ごしております。これからもご指導いただき



山本健太さん

四月より松崎十字の園から転勤してきました。山本健太です。松崎での三年間の経験を生かし、御殿場でも頑張っていきたいと思っております。また、御殿場の良い所等、色々教えて頂けたらと思います。



小松直樹さん

十字の園で働くことができる喜び、誇りを持ち利用者さんが快適に過ごせるように日々努力していきたいと思



築地紋子さん

昨年の十二月から寮棟で働かせて頂いています。築地紋子です。元気で明るいのが取り柄です。宜しくお願いしま



中島 渉さん

十一月に入社して六か月たちました。まだわからない事はばかりですが、一生懸命頑張っていきたいと思



和田美和子さん

四月から常勤で三階ひばりに配属になりました。利用者さんと楽し



田代日香里さん

十字の園にお世話になり、早十ヶ月がたちました。これからも日々努力していきたいと思

新 職 員 紹 介

トイレ等での排泄など、自立へ向かい支援し続けることが大切であります。

「自立支援介護」の基本ケアは、特別なことではなく、水分、食事、排便、運動であり、すべての介護の第一歩、入り口であると言えます。一日あたりの目標として、水分は一五〇〇ml、食事は一五〇〇kcalを摂取。毎日から二、三日に一回の自然排便、歩行を主とした運動を実施します。実際は、一人ひとりの体重や活動量、病状などによって異なることから、個別的に目標や方法を検討しながら、この基本ケアを科学的かつチームで取り組んでいきます。

六月頃から具体的に取り組みはじめ、既に何人かが、トイレに座って頂いたところ排便があった。目を醒ましている時間が増えた。歩行器を使用し僅かな距離でも歩けたことにご本人から「すごい、歩けた、うれしいー」などと喜びの声があった。など幾つもの効果がありました。

自立支援介護は、「科学的介護」とも言われ、基礎知識や理論に基づく支援であり、

目標も明確になりやすいものであります。その為、何でと原因の分析から自立に向かい支援を検討し、記録も客観的で明確になり、成果も可視化されてきます。それは、結果的に、介護の質や専門性の向上、他職種との連携強化につながります。そして、介護職の社会的地位の向上にもつながっていくと考えられます。

全国で現在一五〇万人程度と言われていた介護職員等の人数は、今後その必要人数は増え続け、二〇二五年には二二二万人から二五五万人必要になるとのことです。そうした意味からも、自立支援介護を通じた介護職が独自で主体的な魅力ある専門職として一層確立していけるよう、実践し続けることが大事であります。

そうした好循環を来すよう、私たちは「トイレで排泄したい。」という誰もが当たり前に抱く思いを忘れずに、粘り強く、あきらめず、自立へ向かい、共に喜べる努力を惜しまず取り組み続けていきたいと思えます。

野木秀男さん

誕生日

ちどりユニット
渡邊 秀美

四月十三日は、ちどりユニットにいらっしやる野木秀男さんの誕生日です。こちらに入所されてからほとんど外出されることも無く、家族に電話をしている後ろ姿が妙に私達の記憶に残っていました。「お誕生日を笑顔で迎えていた。どう。」と誰とはなく言

葉が出て、一月前からお祝いの計画を立て始めました。当日、日頃口ずさんでいらっしやる曲を職員が生演奏で弾き語りし、フロアーに居る皆で誕生日の歌をうたい、お祝いしました。午後は外出。連絡してあったお孫さんと落ち合いい、付き添い職員と三人で買い物し、喫茶で和菓子とお茶で一休み。満開の桜並木の中をドライブして帰って来ました。喜んでいただけただけようになによりです。

介護力向上講習会

に参加して

〜元気になる施設を
目指して〜

二〇二二年五月十七日、十八日の両日、第九期介護力向上講習会第一回に参加しました。五月から隔月六回の長期間に渡り、研修結果を実践の場に取り込み確かな成果として介護力の向上と、施設を利用する方々の自立支援の一役を担っていく事を目的として

います。

第一回目を受講した結果『私達が今まで行なってきたケアは反省すべき点が多々ある。』と言ったのが率直な感想です。これは取りも直さず『介護』が日々進化している証だと思えます。新しい知識・技術を取り入れ、今まで培ってきた実績を融合させよりの良いものとして、創りあげていければと思います。

講師の国際医療福祉大学大学院竹内孝仁教授が提唱するケアの基本は大きく分けて「水」「食事」「排便」「運

動」の四つ。その中で特に重要視されていたのが、全ての生命の源であると共に身近な存在「水」でした。施設に住まう方々の多くの問題は、水分の正しい摂取で改善を図る事が可能とのこと。

私たちのケアもまずは水から。そして『排便はトイレで。日中のオムツはゼロを目標して』『一般食が食せることを』『再び歩けるように』と段階を経て取り組んでいければと思います。

3階審棟副主任

高木 直也



御殿場

デイサービスセンター

小野 真樹

介護保険改正で二〇一二年四月より御殿場デイサービスセンターを利用される方々への提供時間が変わりました。改正前は一律に九時四十五分～十六時〇〇分でしたが、改正後は九時三〇分～一五時三〇分と九時三〇分～一六時四十五分の二通りの提供時間を、私もしくはご家族に選んでいただく形態に改善しました。私たちの都合ではなく、あくまで私たちの施設・サービスを利用して下さる方々の声に応えていかなければいけないという思いを形に表させていただきました。

現在定員三十五名のうち、平均して十名の方が長い時間デイサービスを利用されています。「夏場の日が長い時期だけ」と言うように長時間利用の理由は文字通り十人十色ですが、ご本人・ご家族が利用時間を選ぶことができるシステムは、他の施設には無い特徴であろうと思います。しかしながら、この時間帯を導入した当初、デイサービスにいらつしやうした方々から「何故わたしは帰ることができないの?」とか「同じ車で来た人が帰ってしまったけれど、私はちゃんと送ってもらえるの?」という不安の声を聞くことが多々ありました。初めての事でもあり、また他設がないことから試行錯誤の連続でした。二か月を経過した今、お見えになる方々そして私たち職員もやっとこの変革に対応でき落ち着いてきたように感じます。

一日の中で、カラオケやゲームの他にも歩行訓練等の『訓練』、また目的を持った有意義な時間利用をしていたために、職員からのお仕事・作業のお願いをさせていただくような事も試み、短時間のサービス利用をされる方々にも、長時間のサービス利用をされる方々にも今まで通り、安心して一日一日を大切に有意義に過ごしていただくよう私たちも全力で取り組んでおります。

「デイサービスを長い時間使いたい。」「利用日をもっと一日増やしたい」と言っていただけ願う事を願いながら、皆様をお待ち申し上げます。

「何故わたしは帰ることができないの?」とか「同じ車で来た人が帰ってしまったけれど、私はちゃんと送ってもらえるの?」という不安の声を聞くことが多々ありました。初めての事でもあり、また他設がないことから試行錯誤の連続でした。二か月を経過した今、お見えになる方々そして私たち職員もやっとこの変革に対応でき落ち着いてきたように感じます。



ぶじゅんぐら

高橋 直輝

介護保険が二〇一二年四月一日より改定されました。今回の改定に於いて、デイサービスとして大きくこれまでと変わった点は、サービス提供時間の変更が挙げられます。それに伴い、当事業所では事前に、ご家族・ご利用者様に対しアンケート調査を実施し、その結果を基にサービス提供時間を①九時三〇分～一五時三〇分と②九時三〇分～一六時四十五分の二つの時間帯で提供させていただくことになりました。

送迎につきまして、お時間が若干、前後したことにより、ご家族・ご利用者様に対してご迷惑をおかけいたしました。また、デイサービスでの日課や活動内容に関しましては、これまでと大きな変化は無く、特に目立った混乱は見られません。現在、当デイサービスでは、認知症緩和ケアをメインとしたレクリエーション等で、明るく楽しみながら心身ともにリフレッシュしていただけるよう、様々なプログラムをご用意するとともに、ボランティアの方との触れ合いや、四季折々のイベント活動を通じ、「喜び」や「生きがい」を感じていただき、その

人らしく、いきいきとした生活を送っていただけるよう支援させていただいております。今後も、ご家族・ご利用者様のニーズに可能な限りお応えできるような質の高いサービス提供を行っていきたく思っております。



ケアハウス

御殿場アドナイ館

主任 鬼塚 歩

今年の四月から、前任の田内主任に替わり、アドナイ館の主任を務めさせていただいております。まだまだ未熟な私で、戸惑いも多々ありますが、入居者の皆様に元気をわけていただきながら、日々学んでおります。

早朝出勤してくると、散歩されている方、牛乳配達のおじさん待っている方、庭のお掃除を下さっている方など、皆様の元氣な姿があり嬉しく思います。

これからも入居者の皆様に、毎日の生活を安心して楽しく過ごしていただける様、笑顔と思いやりを忘れない主任を目指したいと思います。



御殿場十字の園

「ご縁を大切に」
一枚橋デイサービスセンター
ひだまり
松本 有里

たかねデイサービスから、一枚橋デイサービスひだまりに移転して、二年が経ちました。たかねデイでの良さを残しつつ、ひだまりデイの住環境の広さを有効活用し、一日十名のご利用者と三名の職員で毎日をご過ごしております。

午前中は主に入浴に重点を置き、ご利用者お一人ずつ、ゆっくり入浴できるように配慮しております。あるご利用者は、入浴すると、「あー、気持ちいい。ありがとう」と毎回、満面の笑みで言ってお下さいます。午後は、看護師による、イスに座ったまま行う体操やアクティビティゲームを取り入れて、身体を動かす機会を提供して身体機能の維持に努めています。

憩いの間からは、庭が



一望でき、畑や木々についてご利用者同士で話題となったり、ご利用者がまかれたエサをついばみにスズメやムクドリなどの野鳥が姿を現したりして、ご利用者の目を楽しませています。今年もひだまりデイの瓦屋根にスズメが巣を作り、無事に雛が巣立ちました。同じ空間で、時間を共有、また共感し、共に笑いあえる関係の構築を目指しています。

ひだまりデイで出会ったという「ご縁」を大切にしたいと思っております。

御殿場十字の園 平成23年度決算報告

貸借対照表 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	22,612
現金預金	122,130	固定負債	238,974
未収金他	125,960	負債の部合計	261,586
流動資産計	248,090	総資産の部	
固定資産		基本金	175,413
土地	379,297	国庫補助金等特別積立金	455,409
建物	580,172	その他の積立金	60,000
その他の固定資産	80,002	次期繰越活動差額	335,153
		(内当期活動収支差額)	(47,989)
固定資産計	1,039,471	純資産の部合計	1,025,975
資産の部合計	1,287,561	負債・純資産の部合計	1,287,561

事業活動計算書 (単位:千円)

適 要	金 額
介護保険収入(含利用料)	578,986
その他	209,185
事業活動収入	788,171
人件費支出	517,309
経費	180,234
利用者負担軽減	1,680
減価償却費	40,323
その他	1,573
事業活動支出	741,119
事業活動収支差額	47,052
事業活動外収支差額	1,707
特別収支差額	-770
当期事業活動収支差額	47,989

平成23年度支える会会計報告書 (単位:千円)

収入(献金)の部		支出の部	
現金	1,222,906	振込手数料	2,840
(76件)		印刷代	519,120
振込	263,500	郵送料	150,895
(38件)		消耗品費	36,540
		借入金償還等	777,011
合計(114件)	1,486,406	合計	1,486,406

御殿場アドナイ館 平成23年度決算報告

貸借対照表 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	3,139
現金預金	1,137	固定負債	103,929
未収金他	8,570	負債の部合計	107,068
流動資産計	9,707	総資産の部	
固定資産		基本金	137,257
土地	238,047	国庫補助金等特別積立金	117,247
建物	238,047	その他の積立金	15,800
その他の固定資産	68,410	次期繰越活動差額	-61,208
		(内当期活動収支差額)	(-7,193)
固定資産計	306,457	純資産の部合計	209,096
資産の部合計	316,164	負債・純資産の部合計	316,164

事業活動計算書 (単位:千円)

適 要	金 額
利用者等利用料収入	35,367
補助金収入	17,829
その他	5,051
事業活動収入	58,247
人件費支出	16,503
経費	25,007
減価償却費	16,873
その他	28
事業活動支出	58,411
事業活動収支差額	-164
事業活動外収支差額	-329
特別収支差額	-6,700
当期事業活動収支差額	-7,193



昨年度も多大なご寄付ありがとうございました。

献金下さった方々

敬称は略させていただきます

3月分

社団法人玉穂報徳会、加藤喜美子、献金箱

4月分

平川みつ子、鈴木艶子、上野忠昭、白鷺会、小野茂、鈴木きよ子、深沢婦人会、高村さよ子

5月分

関根美代子、西村正子

協力ボランティア

敬称は略させていただきます

3月

静岡県動物保護協会、動物ボランティア、厚生年金婦人会、みくりや友の会、中里京子、斉藤淑子、資生堂

4月

リハビリメイク、高橋文夫、木洩れ日朗読の会、アドナイ館、AKI美容室、春風一路、市野はつ、太極拳カツマタ、琴音会、赤十字奉仕団、市婦連福祉グループ、山本浩子、隆生会、関根保子、神保久美子、なでしこ会、渡辺瑞希、高村裕樹、菅原幸和、池谷知子、重野美恵子

5月

容室、アドナイ館、貢宝会、御殿場教会、斉藤淑子、高橋浩子、隆生会、神保久美子、太極拳カツマタ、赤十字奉仕団、鈴の会、栢の木カラオケ同好会、杉の子大正琴、関根保子、重野美恵子、服部かよ子、若葉会、菅原幸和、池谷知子

5月

みくりや友の会、レインボーハート、市野はつ、勝又町子、高橋文夫、厚生年金婦人会、芹澤菊枝、AKI美容室、中里京子、市婦連福祉グループ、なでしこ会、斉藤淑子、印野はさまの会、山本浩子、ビューティサロンヤマダ、ナカノ美

中里京子、みくりや友の会、春風一路、藤川健グループ、市野はつ、ビューティサロンヤマダ、ナカノ美容室、高橋文夫、山本浩子、関根保子、芹澤菊枝、中垣内紀子、神保久美子、太極拳カツマタ、厚生年金婦人会、高橋浩子、アドナイ館、玉穂婦人会、不二聖心中学生、神尾章、赤十字奉仕団、弥生会、御殿場教会、勝又町子、ゆうゆう母親クラブ、琴音会、市婦連福祉グループ、渡辺弘子、東山婦人会、静岡県動物保護協会、動物ボランティア、小泉志保、田中麻奈美、隆生会、鈴の会、池谷

御殿場十字の園へのご寄付

3月分	3件	114,002円
<small>(平成23年度合計99件)</small>		<small>1,486,406円</small>
4月分	8件	105,000円
5月分	2件	51,000円
4~5月分	累計10件	156,000円

ご献金、ご献品心より感謝申し上げます。

郵便振替口座

口座番号 00870-9-190162

口座名称

社会福祉法人十字の園
御殿場十字の園

ご連絡下されば振替用紙をお送りいたします。

季節の話題

ひまわりユニットを利用されている方の「さつまいも食べたいなあ」との言葉を聞きつけ「それじゃあ芋作ろうか」と職員がぼそっと呟いたことから、ひまわりグループで六月からさつまいも作りになりました。初めての試みなので、プラントーではなく土嚢袋を買っていただき、残りは衣装ケースを使っています。



知子、菅原幸和、重野美恵子、服部かよ子

あとがき

一八〇八年、江戸の両国・隅田川の花火を仕切っていたのは二人の花火師、八代目「鍵屋弥兵衛」と鍵屋から暖簾分けした初代「玉屋市兵衛」。鎖国日本において黒色火薬は武器から娯楽、技術から文化へと変貌して行きました。「鍵屋」十五代現当主は女性。四年前の北京では柔道競技審判員として参加し、今回のロンドンオリンピックは強化委員会メンバーに名を連ねています。この夏のささやかな情報と共にこの機関誌をお届けします。
(やまもと)

広いベランダに芋の蔓がニョキニョキと絡み合って大きく育っています。秋にはさつまいもパーティーが出来るくらいの量になっています。とを願っています。

ひまわりユニット

芹澤 有希